

令和3年度 高等学校入学者選抜審議会 第3回専門委員会

日時 令和4年2月16日（水）午後2時～

場所 オンライン会議（Google Meet）

次 第

1 開 会

2 報告・審議

現在の入試制度に係る実施状況の検証について

3 その他

4 閉 会

【 資料 】

報告・審議関係資料

参考資料（本県入学者選抜制度の変遷）

高等学校入学者選抜審議会条例

(昭和28年3月28日条例第40号)

最終改正 平成24年12月条例第71号

第1条 教育委員会の諮問に応じ、高等学校の通学区域の検討、入学者の選抜の方法及びその実施並びに学力検査問題の作成について調査審議するため、高等学校入学者選抜審議会（以下「審議会」という。）を置く。

第2条 審議会は、30人以内の委員で組織する。

2 審議会に、専門の事項を調査研究させるため、専門委員を置く。

第3条 委員及び専門委員は、学校の教職員、総合教育センターの職員、教育庁の職員及び学識経験者のうちから教育委員会が任命又は委嘱する。

第4条 委員の任期は二年とする。ただし、補欠による委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 教育委員会が必要と認めたときは、前項の規定にかかわらず、任期中においても当該委員を解職することができる。

3 専門委員は、当該専門の事項に関する調査研究が終了したときは、退任するものとする。

第5条 審議会に、委員長及び副委員長各一人を置き、委員の互選によって定める。

2 委員長は、会務を掌理する。

3 副委員長は、委員長に事故あるとき、その職務を代行する。

第6条 審議会の会議は、必要に応じて委員長が招集する。

第7条 この条例に定めるものを除く外、審議会の議事の手続その他審議会の運営に関し必要な事項は、委員長が会議にはかつて定める。

附 則

この条例は、公布の日から施行する。

附 則（昭和47年10月11日条例第27号抄）

（施行期日）

1 この条例は、公布の日から施行する。

附 則（平成24年12月20日条例第71号抄）

（施行期日）

1 この条例は、平成25年4月1日から施行する。

高等学校入学者選抜審議会 第3回専門委員会 名簿

(専門委員)

No.	氏名	現職	備考
1	田端 健人	宮城教育大学教職大学院教授	入選審委員
2	浅野 直美	宮城県PTA連合会副会長	入選審委員
3	清水 祐子	大崎市立松山中学校校長	入選審委員
4	西條 和也	気仙沼市立大島中学校教頭	
5	河本 和文	東北学院榴ヶ岡高等学校校長	
6	葛西 利樹	志津川高等学校校長	
7	尾形 裕	築館高等学校教頭	
8	高橋 賢	総合教育センター所長	入選審委員

(教育庁)

高校教育課 課長	遠藤 秀樹
総括課長補佐	後藤 康弘
副参事兼総括課長補佐	佐藤 和寛
教育指導班課長補佐	菊田 英孝
教育指導班主幹	上園 知明
〃 主幹	菊地 芳浩
〃 主幹	鎌田 幹子
〃 主幹	鈴木 尚純
〃 主幹	高木 伸幸
〃 主幹	佐々木久晴
〃 主任主査	清原 和
〃 主任主査	赤間 裕樹
〃 主査	後藤 宗範

(仙台市教育局)

学校教育部 高校教育課 課長	春日川 孝
〃 指導主事	大塚 修哉

資料

報告・審議関係資料

報告

○第2回専門委員会における審議内容	1
-------------------	---

審議

○現在の入試制度に係る実施状況の検証について

1 アンケート調査の実施	5
2 アンケート調査の内容	
(1) 調査の観点 (案)	7
(2) 質問項目 (案)	13
3 今後のスケジュール	18

報 告

○ 第2回専門委員会における審議内容

1 アンケート調査の実施について

【案】

- 目的 令和2年度から実施している現在の入試制度について、その実施状況を踏まえ、主に旧制度からの変更点について、その効果を検証するとともに、併せて現行制度の一層の定着に向けての改善の方向性・必要性について検討する。
- 時期 令和4年度（令和4年4月～5月）
- 対象（案）
 - ・公立高等学校
 - ・国立・公立・私立中学校 ・特別支援学校中学部
 - ・高校1～3年生徒，保護者
（地区ごとに学校を抽出して回答を依頼）
- 方法 Webフォーム（Google forms等）を活用

【委員からの主な意見等】

（生徒，保護者に調査を依頼する高校の抽出について）

- 県内各地区から，地区ごとに特徴のある学校（普通科の進学中心の学校，専門高校等）をできるだけ網羅し，母集団を表現するような高校を抽出したい。

2 アンケート調査の内容について

（1）調査の観点（案）

【案】

- 検証：旧制度からの変更点の効果
 - ・進路指導について：目的意識・意欲，主体的な進路選択
学習意欲の喚起，学習習慣の形成
 - ・学校の特色について：特色ある学校づくり
 - ・入試期間について：入試期間の長期化の解消
- 評価：現行入試制度の成果と課題
 - ・受験機会について：一本化のメリット・デメリット
 - ・生徒の資質・能力の多面的な評価について
：共通・特色選抜のメリット・デメリット
 - ・入試事務について

【委員からの主な意見等】

(検証：旧制度からの変更点の効果 について)

- 入試期間の長期化の解消について、高校と中学校、公立と私立でその捉え方が異なる。
- 学習習慣の形成の項目をどのような形で聞くのが難しい。

(評価：現行入試制度の成果と課題 について)

- 生徒は共通選抜、特色選抜どちらで合格したか分からないので、共通選抜、特色選抜のメリット・デメリットは答えられるのか。
- 受験の機会や入試事務については答えられると思う。
- 現場の声、入試事務担当者など教員の声が反映される形がよい。
- 教員と受験生や保護者とでは、違った観点で様々な意見が出てくるだろう。

(観点について)

- 中学校用、高校用、生徒用、保護者用でそれぞれ観点を決めたほうがよい。

(2) 質問項目案

【案】

① 中学校、高校（学校）対象調査

(1) 検証：旧制度からの変更点の効果

- 現在の入試制度について、

【中学校向け】

- ・「入試日程の一本化」により、(教職員の)負担感は解消されている
- ・「求める生徒像・選抜方法」により、各高校の特色が伝わっている
- ・生徒たちの「目的意識の明確化、主体的な進路選択」につながっている
- ・生徒たちの「学習意欲の喚起・学習習慣の形成」に役立っている
- ・「追試験の実施」は受験機会の確保につながっている

【高校向け】

- ・「入試日程の一本化」により、(教職員の)負担感は解消されている
- ・各高校が進める「特色ある学校づくり」に役立っている
- ・「求める生徒像」により、学校の特色を伝えることができている
- ・生徒たちは、主体的に進路を選択して高校に入学している
- ・「追試験の実施」は受験機会の確保につながっている

※各質問に対する回答は、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」、「どちらかといえばそう思わない」、「そう思わない」の4件法

(2) 評価：現行入試制度の成果と課題

【中学校・高校共通】

- 共通選抜と特色選抜について（選抜方法，募集割合）
- 第一次募集（本試験）の日程について
- 追試験の日程について
- 第二次募集の日程について
- 志願希望調査について
- 出願手続きについて
- 学力検査について
- 面接・実技・作文について

※各質問に対する回答は，「課題はない」，「どちらかといえば課題はない」，
「どちらかといえば課題がある」，「課題がある」の4件法

② 生徒・保護者対象調査

(1) 検証：旧制度からの変更点の効果

- 現在の入試制度について，

【生徒向け】

- ・「求める生徒像」等により，各高校の特色が伝わっている
- ・「受験に対する目的意識の明確化，主体的な進路選択」につながっている
- ・「学習意欲の喚起・学習習慣の形成」に役立っている
- ・「追試験の実施」は受験機会の確保につながっている

【保護者向け】

- ・「求める生徒像」等により，各高校の特色が伝わっている
- ・入試は子どもの受験に対する目的意識の明確化，主体的な進路選択」につながっている
- ・入試は，子どもの「学習意欲の喚起・学習習慣の形成」に役立っている
- ・「追試験の実施」は，受検機会の確保につながっている

(2) 評価：現行入試制度の成果と課題

【生徒・保護者共通】

- 入試日程の一本化について
- 入試日程全体について
- 入試制度（共通選抜と特色選抜）について
- 出願手続きについて

【委員からの主な意見等】

(入試日程の一本化に関する質問について)

- 入試日程の一本化による教職員の負担感については、中学校の教員と高校の教員とでは、負担感の質が大きく異なり、同じ質問項目でも、その質が異なる。
- 負担感というように一つに括らず、細やかに別々に質問することで、実情が現れると思われる。

(入試日程全体に関する質問について)

- 保護者の観点で見ると「入試期間の長期化の解消」の部分で、答え方に少し迷う。
- 長期化の解消は、学力保証ができてきているかどうかと一体である。中学校では、全ての単元を学習し、習得する余裕が出てきたかなど。高校では、入学者の基礎学力がこれまでよりも上がってきている感触があるかどうかは、中学校での学習がしっかりできていることと連動すると思う。

(選抜方法に関する質問について)

- 各高校の選抜方法が複雑化し高校側の説明が中学校にきちんと伝わっているか、選抜方法について、良く伝わっているか、理解できているかといった項目が欲しい。
- 出願倍率によっては、共通選抜・特色選抜のどちらかの選抜を実施しないこともありうるので、そのような学校は書きにくいのではないか。

(入試制度に係る質問について)

- 保護者や生徒に対して調査すると、以前の手続きはどうであったか比較できない。出願手続きについてどうかと聞かれても、何と比較してどうなのか答えにくい。
- 私立と公立については、入試のシステムだけでなく、就学支援金の優遇など経済的な面もあり、なかなか難しい。
- 生徒向けの質問について、高1～高3とあるが、「中3のときに入試制度が変わったときの評価」をすることでよいか

(追試験に関する質問について)

- 追試験について実施していない学校の生徒は、「受けていないので知らない」となる。聞き方として、「制度として」答えてほしいと強調すべき。
- 追試験を利用していない生徒の方が圧倒的に多いが、今回一本化と同時に導入した新しい枠組みでもあり、この辺もいろいろ工夫が必要である。

(質問全体、その他について)

- 聞きたいもののカテゴリーが同じでも、それをいくつか別々にしていくことが必要。
- 聞き方は難しいが、受験を失敗してしまった生徒の心のケアなどというものを、学校側が十分に配慮されているかどうかを聞く項目があってもよい。

審 議 現在の入試制度にかかる実施状況の検証について

1 アンケート調査の実施

○目 的	令和2年度から実施している現在の入試制度について、その実施状況を踏まえ、主に旧制度からの変更点について、その効果を検証するとともに、併せて現行制度の一層の定着に向けての改善の方向性・必要性について検討する。
○時 期	令和4年度（令和4年5月～6月）
○対 象	<ul style="list-style-type: none"> ・公立高等学校 ・国立・公立・私立中学校 ・特別支援学校中学部 } ……学校として回答 <ul style="list-style-type: none"> ・高校1～3年 生徒，保護者 ……受験側として回答 (現行入試制度を受験した生徒及びその保護者を対象 地区及び学校を抽出して回答を依頼する※)
○方 法	Webフォーム（Google forms 等）を活用

生徒・保護者調査依頼校抽出表 (※生徒数は各校の令和3年5月1日現在の在籍者数)

地区	普通科	普通科+専門	専門・総合	定時制	生徒数計
南部	角田	柴田	村田	白石七ヶ宿	1,059
中部 (仙台市内)	仙台二	泉	工業	第二工業	2,671
中部 (仙台市外)	名取北	黒川	農業	貞山	2,303
北部	築館	松山	登米総合産業	田尻さくら	1,197
東部	石巻	志津川	気仙沼向洋	東松島	1,320
生徒数計	3,259	2,108	2,483	700	8,550

抽出の基準：(普通科)各地区の拠点校を中心に抽出

(普通+専門)各地区の普通科で抽出した学校とは異なる地域の高校

(専門・総合)学科の重複がないように抽出

※地区内でも各地域から高校を抽出する。

(参考)

公立高等学校 地区別一覧 (全日制)

学校名の () は市立高校

地区	普通科	普通科+専門	専門・総合
南部 (刈田柴田) (伊具)	蔵王, 柴田農林川崎 角田	白石, 柴田	白石工, 村田 柴田農林, 大河原商 伊具
中部 (仙台市内)	仙合一, 仙台二華 仙台三桜, 仙台南 仙台西, 仙台二 仙台三, 宮城広瀬 泉松陵, 泉館山, (仙台)	仙台向山, 仙台東 宮城一, 泉, 宮城野	工業 (仙台工), (仙台商)
中部 (亶理名取) (塩釜) (黒川)	名取北, 富谷	名取, 亶理, 塩釜 多賀城, 松島, 利府, 黒川	農業
北部 (大崎) (遠田) (登米) (栗原)	古川, 古川黎明 岩出山, 中新田 涌谷, 佐沼, 登米 築館, 岩ヶ崎	松山, 南郷	加美農, 古川工 鹿島台商, 小牛田農林 登米総合産業, 迫桜 一迫商
東部 (石巻) (本吉)	石巻, 石巻好文館 石巻西, 気仙沼 (桜坂)	志津川	石巻北, 水産, 石巻工 石巻商, 本吉響, 気仙沼向洋

公立高等学校 地区別一覧 (定時制)

学校名の () は市立高校

地区	普通科	専門学科
南部	白石七ヶ宿, 大河原商*	
中部	名取, 貞山, (仙台大志)	第二工業, (仙台工業)
北部	田尻さくら, 佐沼	古川工
東部	石巻北飯野川, 東松島, 気仙沼	

*大河原商業(定時制)は令和4年度から募集を停止

2 アンケート調査の内容について

(1) 調査の観点

現行入試制度の成果

(進路指導について)

○目的意識・意欲の向上, 主体的な進路選択

→新しい入試制度が

- ・受験生が進路に対する意識を高めることにつながっているか
- ・受験生の主体的な進路選択につながっているか
- ・中学校の進路指導等にどのような効果をもたらしているか

○学習意欲の喚起や学習習慣の形成

→新しい入試制度や高校入試が

- ・生徒の学習意欲の喚起や学習習慣の形成につながっているか
- ・中学校での学習指導に役立っているか

(学校の特色について)

→・新しい入試制度は, 高校の特色づくりにつながっているか

- ・「求める生徒像・選抜方法」を明確にすることで, 高校の特色を受験生や保護者に示すことができているか

(入試日程を一本化したことの効果について)

→・受験生の心理的負担は軽減しているか

- ・中学校・高校の教育活動にどのような効果があったか
- ・中学校の進路指導にどのような効果があったか
- ・追試験の導入はどのような効果があったか

(生徒の資質・能力の多面的な評価について)

→・共通選抜及び特色選抜により, 学校の特色に基づいて, 学力と同時に生徒の多様な資質能力を多面的に評価することができているか

(入試事務について)

→・入試日程の一本化により, 入試事務の効率化に効果があったか

- ・教員の負担感は軽減しているか

(参考) 新入試制度における改善の主な観点

- ・前期選抜と後期選抜の入試日程を一本化し、入試期間の長期化を解消する。
- ・各高等学校の特色を明確に示した上で、その特色に基づいて、学力と同時に生徒の資質・能力についても多面的に評価する。
- ・各高等学校が求める生徒像を提示することで、中学生の目的意識の明確化及び主体的な進路選択を促進する。

(平成 29 年 3 月 14 日「今後の県立高等学校入学者選抜の在り方について (答申)」より)

○調査対象ごとの観点の整理

【一覧】

現行入試制度の成果

観点	中学校	高校	生徒	保護者
進路指導について				
・目的意識	○		○	○
・主体的な進路選択	○	○	○	○
・学習意欲の喚起	○		○	○
・学習習慣の形成	○		○	○
学校の特色づくり				
・特色ある学校づくり	○	○	○	○
入試日程を一本化したことの効果について				
・受験生の心理的負担の軽減	○		○	○
・学校の教育活動への効果	○	○		
生徒の資質・能力の多面的な評価について				
・生徒の多様な資質・能力の多面的な評価		○		
入試事務について				
・入試事務の効率化への効果	○	○		

【中学校対象調査の観点】 (学校に対する調査)

現行入試制度の成果

(進路指導について)

○目的意識・意欲の向上, 主体的な進路選択

→新しい入試制度が

- ・受験生が進路に対する意識を高めることにつながっているか
- ・受験生の主体的な進路選択につながっているか
- ・中学校の進路指導等にどのような効果をもたらしているか

○学習意欲の喚起や学習習慣の形成

→新しい入試制度や高校入試が

- ・生徒の学習意欲の喚起や学習習慣の形成につながっているか
- ・中学校での学習指導に役立っているか

(学校の特色について)

→・「求める生徒像・選抜方法」により, 中学校や受験生に対して, 高校の特色が伝わっているか

(入試日程の一本化したことの効果について)

→・入試日程を一本化したことにより, 受験生の心理的負担は軽減しているか
・追試験の導入は, 受験生(保護者)の心理的負担の軽減に繋がっているか
・中学校の受験指導等にどのような効果があったか

(入試事務について)

→・入試日程の一本化により, 入試事務の効率化に効果はあったか

【高校対象】 (学校に対する調査)

現行入試制度の成果

(進路指導について)

○目的意識・意欲の向上, 主体的な進路選択

→新入試制度により, 受験生が目的意識をもって主体的に進路選択し, 高校を受験し入学するようになったか (なったと感じるか)

(学校の特色について)

→・「求める生徒像・選抜方法」を明確に示すことで, 高校の特色を中学校や受験生, 保護者に伝えることができているか

(入試日程を一本化したことの効果について)

→・学校の教育活動にどのような効果があったか

(生徒の資質・能力の多面的な評価について)

→・共通選抜及び特色選抜により, 学校の特色に基づいて, 学力と同時に生徒の多様な資質能力を多面的に評価することができるか

(入試事務について)

→・入試日程の一本化により, 入試業務にどのような効果があったか

・入試業務における教員の負担感は軽減しているか

【生徒対象】 （受験を経験した生徒（高1～3年生）に対する調査）

現行入試制度の成果

（進路指導について）

○目的意識・意欲の向上，主体的な進路選択

→（各高校から「求める生徒像・選抜方法」が明確に示されたことで，）

- ・進路に対する意識が高まったか
- ・主体的に進路を選択することができたか

○学習意欲の喚起や学習習慣の形成

→・高校入試を目標にして，学習意欲が高まり，学習習慣が身に付いたか

（学校の特色について）

→・「求める生徒像・選抜方法」により，各高校の特色を知ることができたか

（入試日程を一本化したことの効果について）

→・追試験の導入は，受験生の心理的負担の軽減・安心感に繋がっているか

【保護者対象】 (受験を経験した保護者に対する調査)

現行入試制度の成果

(進路指導について)

○目的意識・意欲の向上, 主体的な進路選択

→ (各高校から「求める生徒像・選抜方法」が明確に示されたことで,)

- ・子どもが進路に対して意識を高めることができていたか
- ・子どもの主体的な進路選択につながっていたか

○学習意欲の喚起や学習習慣の形成

→ ・子どもが高校入試を目標に熱心に学習に取り組むなど, 入試が学習意欲の喚起や学習習慣の形成につながっていたか

(学校の特色について)

→ ・「求める生徒像・選抜方法」が示されたことで, 各高校の特色を知ることができたか

(入試日程を一本化したことの効果について)

→ ・追試験の導入は, 受験生(保護者)の心理的負担の軽減・安心感に繋がっているか

(2) 質問項目案

【中学校対象調査】 (学校に対する調査)

○次の①～⑨の質問に対する回答は、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」、「どちらかといえばそう思わない」、「そう思わない」の4件法及びその判断した事由の自由記述とする。

- ① 各高校が「求める生徒像・選抜方法」を明確に示すことで、受験生の進路に対する意識を高め、主体的な進路選択につながっている
- ② 新しい入試制度は、生徒が高校入試を目標として、熱心に学習に取り組むなど、学習意欲の喚起や学習習慣の形成に役立っている
- ③ 新しい入試制度での「求める生徒像・選抜方法」により、中学校や受験生に対して、高校の特色が伝わっている
- ④ 前期選抜と後期選抜の入試日程を一本化したことにより、受験生の心理的負担は軽減している
- ⑤ 追試験の導入は、受験生や保護者に対して、受験機会の確保や安心感に繋がっている
- ⑥ 新しい入試制度は、生徒にとって「学校生活の充実」に役立っている
- ⑦ 新しい入試制度は、「学校の教育活動の充実」に役立っている
- ⑧ 入試日程の一本化は、中学校での進路指導にとって役に立っている
- ⑨ 入試日程の一本化により、受験指導や出願手続き等の入試事務における中学校教員の負担感は軽減している

○次の⑩～⑭の項目について、「課題はない」、「どちらかといえば課題はない」、「どちらかといえば課題がある」、「課題がある」のうち当てはまるものを回答し、その判断した事由を自由記述する。

- ⑩ 第一次募集（本試験）の日程について
- ⑪ 第一次募集（追試験）日程について
- ⑫ 第二次募集の日程について
- ⑬ 「求める生徒像・選抜方法」について
- ⑭ 出願希望調査について

○「その他」として、「入試制度に関する意見や要望」を自由記述

【高校対象調査】 （学校に対する調査）

○次の①～⑦の質問に対する回答は、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」、「どちらかといえばそう思わない」、「そう思わない」の4件法及びその判断した事由の自由記述とする。

- ① 新入試制度により、受験生が目的意識をもって主体的に進路選択して高校を受験し、入学するようになった（と感じている）
- ② 新しい入試制度は、各高校が進める「特色ある学校づくり」に役立っている
- ③ 新しい入試制度での「求める生徒像・選抜方法」により、中学校や受験生に対して、高校の特色が伝わっている
- ④ 入試日程の一本化により、生徒に対応する時間の確保につながっている
- ⑤ 新しい入試制度は、「学校の教育活動の充実」に役立っている
- ⑥ 新しい入試制度では、「学校の特色及び求める生徒像に沿った、受験生の資質・能力の多面的な評価」ができている
- ⑦ 前期選抜と後期選抜の入試日程を一本化したことにより、高校教員の入試業務に係る負担は軽減している

○次の⑧～⑫の項目について、「課題はない」、「どちらかといえば課題はない」、「どちらかといえば課題がある」、「課題がある」のうちあてはまるものを回答し、その判断した事由を自由記述する。

- ⑧ 第一次募集（本試験）の日程について
- ⑨ 第一次募集（追試験）日程について
- ⑩ 第二次募集の日程について
- ⑪ 「求める生徒像・選抜方法」について
- ⑫ 出願希望調査について

○「その他」として、「入試制度に関する意見や要望」を自由記述

【生徒対象調査】（受験を経験した生徒（高1～3年生）に対する調査）

○次の①～⑥の質問に対する回答は、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」、「どちらかといえばそう思わない」、「そう思わない」の4件法及びその判断した事由の自由記述とする。

- ① 高校入試は、将来を考える機会になった
- ② 各高校から示される「求める生徒像・選抜方法」は、進路に対する意識を高め、主体的な進路の選択に役立った
- ③ 高校入試（学力検査）は、学習意欲の喚起や学習習慣の形成に役立った
- ④ 各高校から示された「求める生徒像・選抜方法」は、高校の特色がよく伝わるものであった
- ⑤ 各高校による入試説明により、選抜方法等をよく理解することができた
- ⑥ 追試験の制度は、受験生にとって、受験機会の確保や安心感に繋がっている

○次の⑦～⑧の項目について、「課題はない」、「どちらかといえば課題はない」、「どちらかといえば課題がある」、「課題がある」のうちあてはまるものを回答し、その判断した事由を自由記述する。

- ⑦ 「求める生徒像・選抜方法」について
- ⑧ 入試制度について

○「その他」として、「入試制度に関する意見や要望」を自由記述

【保護者対象調査】（受験を経験した生徒の保護者に対する調査）

○次の①～⑥の質問に対する回答は、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」、「どちらかといえばそう思わない」、「そう思わない」の4件法及びその判断した事由の自由記述とする。

- ① 高校入試は、子どもが将来について考える機会になったと感じる
- ② 各高校から示される「求める生徒像・選抜方法」は、子どもの進路に対する意識を高め、主体的な進路の選択に役立った
- ③ 高校入試（学力検査）は、子どもの学習意欲の喚起や学習習慣の定着に役立った
- ④ 各高校から示される「求める生徒像・選抜方法」は、高校の特色がよく伝わるものであった。
- ⑤ 各高校による入試説明により、選抜方法等をよく理解することができた
- ⑥ 追試験の制度は、受験生や保護者にとって、受験機会の確保や安心感に繋がっている

○次の⑦～⑧の項目について、「課題はない」、「どちらかといえば課題はない」、「どちらかといえば課題がある」、「課題がある」のうちあてはまるものを回答し、その判断した事由を自由記述する。

- ⑦ 「求める生徒像・選抜方法」について
- ⑧ 入試制度について

○「その他」として、「入試制度に関する意見や要望」を自由記述

宮城県公立高校入学者選抜に係るアンケート調査 (中学校対象)

「令和2年度入学者選抜」からスタートした新入試制度について、入試を実施する高校と、生徒が受験する中学校、そして受験を経験した現在の高校1～3年生及びその保護者の方々から、これまで3カ年の実施状況を踏まえた評価と、その課題についての意見を集約し、入試制度の変更点についての効果を検証するとともに、入学者選抜に係る今後の議論の参考とするために調査を実施するものです。

 kokoky@gs.myswan.ed.jp (共有なし) 
[アカウントを切り替える](#)

*必須

学校名 *

回答を入力

⋮

各高校が「求める生徒像・選抜方法」を明確に示すことで、受験生の進路に対する意識を高め、主体的な進路選択につながっている *

1：そう思う, 2：どちらかと言えばそう思う, 3：どちらかと言えばそう思わない, 4：そう思わない
の中から当てはまるもの1つ選択し、回答してください

1
2
3
4

そう思う

そう思わない

上記の質問で、そう判断した事由等があれば具体的に記入してください。

回答を入力

新しい入試制度は、生徒が高校入試を目標として、熱心に学習に取り組むなど、学習意欲の喚起や学習習慣の形成に役立っている *

1：そう思う, 2：どちらかと言えばそう思う, 3：どちらかと言えばそう思わない, 4：そう思わない
の中から当てはまるもの1つ選択し、回答してください

1
2
3
4

そう思う

そう思わない

上記の質問で、そう判断した事由等があれば具体的に記入してください。

回答を入力

⋮

3 今後のスケジュールについて

令和3年度	令和4年2月	第3回専門委員会（アンケート調査質問項目検討・決定）
	3月	新入試制度による3回目の高等学校入学者選抜の実施
		アンケート調査質問項目の決定，調査用Webフォーム作成
令和4年度	令和4年4月	アンケート調査の実施について，各種会議等で周知
	5月	アンケート調査について関係機関に通知し，調査を実施
	6月	アンケート調査回答集計・分析
	7月	令和4年度第1回高等学校入学者選抜審議会にて調査結果の報告
	7月～	調査結果を基に，入試制度の検証

本県入学者選抜制度の変遷

S 4 1 文部省通達：全教科型学力検査方針の転換

S 4 2 学力検査 9 教科から 5 教科に

調査書と学力検査の結果を相関図表を用い総合的に判定

S 5 3 農業・水産学科の一部に、推薦入試導入（←自営者養成目的）
4 教科の評定 2 倍，○A 導入

S 5 9 文部省通知：受験機会の複数化，多面的な調査書の活用

S 6 0 農業・水産の全学科に推薦入試拡大

S 6 1 体育学科に推薦入試，実技導入

S 6 2 商業・家庭・英語科で推薦入試導入

S 6 3 工業・理数科で推薦入試導入

H 元 看護科で推薦入試導入

H 2 全日制でも第二次募集実施

H 5 文部省通知：選抜方法の多様化，多段階の選抜，調査書と学力検査
の比重の置き方の工夫，調査書の学習の記録以外の充実・活用

H 6 普通科で推薦入試導入（*全学科で推薦入試導入）
傾斜配点導入

H 8 定時制に社会人推薦導入

H 1 0 自己申告による傾斜配点導入

H 1 2 面接の工夫・改善（自己表現の導入），普通科に面接を導入

H 1 5 絶対評価による評定記載

H 1 6 推薦入試で口頭試問，英語面接導入

学力検査の数学・英語に学校選択問題導入

H 1 7 連携型中高一貫教育に関する入試開始

H 1 9 中学校から推薦できる人数制限の撤廃

H 2 0 併設型中高一貫校で高校入学導入

H 2 2 数学・英語の共通問題と選択問題の合冊，解答用紙 A 3 判
全県一学区，全県立高校男女共学化

H 2 3 東日本大震災対応，調査書の簡素化，写真票の導入

H 2 4 推薦入試最後の年度，震災 4 校仮校舎受験

H 2 5 推薦入試を廃止，前期選抜と後期選抜を実施

H 2 7 前期選抜の募集割合の上限を拡大

H 2 8 後期選抜の第 2 志望を各校の希望により設定

H 3 0 求める生徒像・選抜方法一覧の作成と配布

R 2 前期選抜・後期選抜を廃止

共通選抜・特色選抜による現行入試制度の導入

現行の入試制度の導入について

1 現行制度導入前の入試制度（平成25年度～平成31年度）

前期選抜	後期選抜	第二次募集
<ul style="list-style-type: none"> ○2月初めに実施 ○あらかじめ各高校が示す出願条件を満たす生徒が受験可 ○学力検査（3教科） ○評定を点数化する（225点） ○学校独自検査（面接、実技、作文のうち1つ以上）を実施 ○志望理由書を提出 ○募集割合は、各高校で定める 	<ul style="list-style-type: none"> ○3月上旬に実施 ○全ての生徒が受験可 ○学力検査（5教科） ○評定を点数化する（195点） ○面接・実技は、必要に応じて実施 ○募集人数は、募集定員から前期選抜等の合格者を除いた人数 	<ul style="list-style-type: none"> ○3月下旬に実施 ○合格者が募集定員に満たなかった高校のみ実施 ○学力検査（実施の有無及び教科数は学校で定める） ○作文、面接、実技から必要に応じて実施

2 現行の入試制度（令和2年度～）

第一次募集	第二次募集
<ul style="list-style-type: none"> ○3月上旬に実施 ○全ての受験生が希望する高校に出願・受験可 ○学力検査（5教科） ○学校によって面接・実技・作文を実施 ○共通選抜及び特色選抜の2通りの方法で合格者を選抜 ○共通選抜、特色選抜の募集人数の割合は各高校が定める <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【共通選抜】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力検査と調査書の相関図を基に、その両方の満点により近い者を上位として、共通選抜の募集人数分を選抜 ・学力検査点：500点満点，調査書点：195点満点 <p>【特色選抜】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力検査点，調査書点，及び面接・実技・作文の得点を合計し，その合計点を基に調査書の記載事項も用いて総合的に審査し，選抜 ・学力検査点：5教科の学力検査の得点を，各高校が教科ごとに定めた倍率によって算出して合計する ・調査書点：各教科・各学年の評定を，各高校が定めた倍率を用いて算出 ・面接・実技・作文の配点は，各高校が定める </div> <ul style="list-style-type: none"> ○やむを得ない事情により，本試験を受験できなかった受験生に対して追試験を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○3月下旬に実施 ○合格者が募集定員に満たなかった高校のみ実施 ○学力検査（実施の有無及び教科数は学校で定める） ○作文、面接、実技から必要に応じて実施